

## 吉浜幼稚園

高浜市の北部、閑静な住宅街に位置し、園舎の東側には明治用水も流れている。吉浜小学校、公民館（図書室完備）に隣接しており、連携がとりやすい環境といえる。駐車場や道路に面しているが、フェンスの高さや開閉する場所の限定、自転車送迎場所の徹底など安全面で工夫がされている。

まちづくり協議会と連携して、菊人形づくりや園内外の畑を使った野菜作りを行っている。園庭は左右に広くとられ、遊具や砂場については学年ごとに順番を決めて遊ぶようになっている。

集団保育を基本としながら、子どもひとり一人の意欲が発揮できるような保育を心掛けているように見受けられる。保育室ごとにその時興味のある遊びができるように、保育者手作りのおもちゃをはじめ、道具や材料が適切に配置されており、室内での遊びは、落ち着いており各グループごとに遊びが異なっても干渉しすぎず、かといって無関心でもなく適度な関係性をもって遊びが成立している。戸外遊びに出る際は、マスクを外し、帽子を身に着けることを幼児自ら身支度を整えるように徹底されていた。給食では、遊ぶ、食べるのグループ分けがされていたが、スムーズに流れて食事、遊びに集中できる環境を整えている。

## ひかりこども園

近隣に住宅が少なく園舎は田畑に囲まれている。近年は高浜市のみでなく、刈谷市、安城市、碧南市からも園児を受け入れている。園庭は広く、のびのびと遊べる空間があり、大型遊具も充実している。園をとりまく道路が狭いので、保護者には一方通行がよく周知されている。各保育室に空気清浄機が設置されており、温度・湿度の管理がなされている。

今年度より保育内容を改め、日常保育が保育者主体から子ども主体に変わりつつあるが、まだまだ手探りで進められているところがあるため、今後に期待する。スイミング・リトミック・ECCなど外部の講師による活動を取り入れている。

プランターでミニトマトを育てて給食で食べたり、大根を育てて水やりをしたり、成長過程を楽しみながら食育に繋げている。たけのこ堀りの際に、カブト虫の幼虫を持ち帰り、羽化させ育てるなどして、成長過程を観察したり感動体験のできる内容を取り入れている。

## 高浜南部保育園

園舎は、閑静な住宅街の中に位置し、高浜市社会福祉協議会が運営している。敷地内には、地域共生型福祉施設「あっぱ」が併設され、高齢者デイサービス、子育て支援センターの機能も併せ持っている。現在はコロナ禍により園児と高齢者の触れ合いはできていないが、多世代交流の場になっている。また、子育て支援においては預ける理由を問わず一時保育を行っている。その際の子どもの特徴、様子などを事前に聞き取り適切な保育をしている。

まちづくり協議会との連携も深く、サツマイモ栽培、焼きいも会や餅つきなど行事も盛んである。小学校や幼稚園との交流が盛んで、職員間の交流や研修も設けてあるが今年度はコロナ禍で思うようにできていない。

おもちゃ、人形、洋服、室内装飾など、手作りで温かみのある保育環境ができている。また、遊びに夢中になり続きをしたときは、名前カードを使って作りかけのブロックなどを保管するルール（システム）ができていることは、子どもの遊びの保障になり学びにつながっていることはとても良い取り組みだと思われる。未満児の保育は、育児担当制を取り入れ子どもひとり一人の生活リズムや人権を尊重した丁寧な「流れる保育」を実践している。そのため、子どもたちは落ち着いて生活をしており、昼食後も自発的にベッドに就き保育士の援助なしで午睡に入っている様子が見られた。職員研修も定期的かつ積極的に行われ、また特別支援学校への研修も参加する職員もいるなど、保育士自身の学びの意欲を感じる。

調理室が保育室と離れているが、栄養士を招き耐熱ガラスの調理器具を使って野菜などが煮える様子を見ることができる料理体験をするなど、食育活動に対しても工夫する姿勢が見られた。まちづくり協議会の協力により、手作りおもちゃをきっかけに子どもの意欲を引き出し、発想を柔軟に受け止めている。

### 吉浜北部保育園

高浜市の北部に位置し、園の西側には吉浜まちづくり協議会と連携して季節の野菜をつくる畑がある。また近くに神社がありイチヨウや桜など季節ごとに花や黄葉、木の実など子どもたちが四季の変化を感じる機会に恵まれている。園舎は古いながらも修繕できる限りのことはしているが、外壁や壁紙の老朽化が顕著で、間近に控えた大規模改修が待ち遠しいところである。

保育者全員で子どもたちを見ている姿が随所に見られる。園では、年齢、クラスにかかわらず外国籍の園児がおり、保育者、職員は言葉や食生活などの文化の違い、壁に当たりながらも工夫したり、言葉ができる保護者にきめ細やかに対応している。環境面では、人数が多く密になっている場面も見受けられる。生活場面において、給食から午睡までの流れがスムーズにできている。特に、コロナ対策により給食時の配膳は保育士がすべて行い、遊ぶ、食べる、午睡とグループ分けされながら順番に行われている。

あらゆる面で保育者らが連携している一つの形として、加配対象、認定を受けていない園児に対しても、個別のファイルが作成されて情報共有がなされていることはとても良い取り組みといえる。

コロナ禍で人数制限などの制約の多い中でも、1日1家族参観の取り組みを行っており、子どもの園での普段の生活を見ることができ、保護者にとって安心感が生まれ、園との信頼関係を築けている。

### たかはまこども園

園の隣に高浜小学校、複合施設（たかぴあ）が隣接している。少し歩けば、高浜港駅、美術館があり恵まれた環境にある。

通用門は2つあり、どちらも電子錠でロックされている。保護者はICカードで門扉を解錠し、園児の出欠席が把握できている。調理室は、調理の様子がみえるように前面がガラス張りになっており、園舎の方に香りが届くように排気にも工夫されている。廊下には、ゴムチップが敷かれており、滑りにくく工夫されている。

全年にリトミックが取り入れられ、5歳児にはさらに体幹を整え集中力を育むために和太鼓と習字が取り入れられている。また、食育に力を入れており、園で栽培・収穫した野菜を使い、園庭でピザ窯で焼く“ピザパーティー”や、魚を一匹ごと園庭で焼く“さんまパーティー”など『命をありがたくいただく』ことを感じられる取り組みがなされている。

未満児室は、無垢の床板を使用して、裸足でもすべらず暖かさを感じる保育室となっている。オムツ処理、使い捨てペーパータオルの使用など、衛生管理に配慮されている。

保護者用の駐車場が隣接されており、保護者が安全に送り迎えできる環境になっている。

### 高浜南部幼稚園

高浜市の南部、碧海町の閑静な住宅街に位置しており、港小学校が隣接している。周辺には、図書館、かわら美術館、あおみ公園、南部ふれあいプラザなどの施設がある。園外保育には、工夫すれば感動体験がしやすい環境にある。

港小おやじの会、南部まちづくり協議会、老人クラブの方々の協力も得ているほか、高浜南部保育園とは、中間にあたる公園で待ち合わせをして遊んだり、手紙のやりとりをしたりなどして連携がとられている。

保育室の設定では、年齢にあった用具、玩具、教材等が用意されていて、保育者もどこに位置したらよいか、連携がとられており、子どもたちは落ち着いて遊びに取り組む様子が見られる。絵本の読み聞かせ、製作をするなど、子どもの興味関心を引き出すことができている。また、園庭は十分な広さではないが、築山やプランターに季節の野菜が栽培され、子どもたちが落ち着いて遊べるよう工夫されている。

さらに、特別支援が必要な園児には、加配の保育者が適切に対応し、保護者対応も適切に実践されている。

### 吉浜保育園

園庭の中央にせんだんの木があり、夏は木陰ができ過ごしやすくなっている。園舎東側のコミュニティーガーデンとは計画的にお年寄りや園児が交流している。

近くには、公園や神社があって自然と触れ合える環境下にある。

まちづくり協議会とは触れ合い農園での苗植えや収穫体験、菊人形作り活動や伝統文化に触れたり、見学したりするなど体験活動を通して連携できている。

未満児の育児担当制はスムーズに実践され、愛着関係の形成ができている。身近な小動物（ウサギ、ハムスター、かめ、メダカ、カタツムリ、カブトムシ）と接することができる環境が用意され、ゆったりする気持ちになれるよう工夫されている。

収穫した野菜を使ったさつまいもパーティーをしたり、流しそうめん、さんまパーティーなどを行ったり、手作りおやつを定期的に提供するなど、“食”に関して力を入れている。